



トキ 野生復帰にむけて

33

今森光彦さんに学ぶ、 「美しい島びゅう」とは〜

「三五郎さんが魚を捕るためにやっていることが、ほかのいきものたちにも都合がよく、美しい風景をつくることにもつながっているのです」

「※かばたから出てゆく水は、人が使ったものです。けれどその水は、水路や小川にこぼれおちた瞬間から息をふきかえしはじめます。川底にはえていくコケや水草やいろいろな貝類、バクテリアまでが、水のろ過に協力して、水を生き返らせるのです。水は使ってしまったと汚くなるという思いこみは、ここでは通用しません」(今森光彦 「おじいちゃんは 水のおいがした」 偕成社より) ※かばた：川端。湧き水を利用した家の中の水場



今森光彦さんは、日本の里山に生きる人と生きもの、自然のすがたを映像や写真に記録し続けているカメラマンです。以前、NHKスペシャルで放映さ

れた「映像詩 里山 命をめぐる水辺」は、世界各国で数多くの賞を受賞し、世界中の人たちが日本の里山の美しさ、人と生きものが共に暮らす姿に感動しました。

現在佐渡市では、美しい島づくりを推進しています。その大きな柱に、トキの野生復帰があります。トキの野生復帰は、トキが佐渡の空に放されるだけの取り組みではありません。トキのエサとなるドジョウやサワガニやバッタ、それらを育む、田んぼや水辺の動植物がバランスよく佐渡に住んでいる状態をつくることです。そして、佐渡の自然を佐渡市民が守り、育て、美しい佐渡で気持ちよく暮らす環境をつくることです。

今森光彦さんの写真や映像には、か



今森光彦【いまもりみつひこ】
写真家。1954年生まれ。琵琶湖にのぞむ田園にアトリエを構え、身近な自然を撮り続ける一方、熱帯雨林や砂漠など世界の辺境を踏破するなど、あらゆる自然を取材。1988年写真集『今森光彦 昆虫記』(福音館)、1996年エッセイ集『里山の少年』(新潮社)など写真集・著書多数。
<http://www.imamori-world.jp/index.html>

つて人と自然が共生していた頃の姿が生き生きと描かれています。

21世紀の現代でも、農業や漁業、林業などで暮らす人たちが自然を大切にしながら生活している、この人たちの日々の活動がたくさんの生きものを守っていることを教えてくれます。

佐渡でも、多くの農林水産業の方々が、知らず知らずにとくさんの生きものを育て、佐渡の美しい自然環境を維持しています。

10月13日には「生きものと人・共生の里を考えるシンポジウム」を開催します。今森光彦さんの写真を通じて、ぜひ、里山で生きる人と自然の共生の姿を学んでください。

今森光彦さんには、ゲストとして参加いただき、映像を交えながらお話しただけのことになっています。こちらもご参加ください。シンポジウムについても詳しくは、市報さど9月号でご案内します。

今森光彦さんの著書、映像は、トキ交流会館にて閲覧できます。

「生きものと人・共生の里を 考えるシンポジウム」

- 日程 10月13日(土)
午後1時開演予定
- 会場 金井能楽堂
- 主催 佐渡市「生きものと人・共生の里を考えるシンポジウム」実行委員会

野生復帰ステーションで 順化訓練開始



行谷小学校児童によるトキの詩とトキの歌の発表

7月10日、野生復帰ステーション順化ケージへ、オス3羽メス2羽の計5羽が放たれ訓練が始まりました。これに先立ち、順化ケージへのトキ放鳥式典がとりおこなわれました。

環境省田村事務次官、泉田新潟県知事、高野佐渡市長があいさつし、野生復帰に向けた期待が語られました。

環境課 トキ推進室

☎ 63-3113

トキ交流会館

☎ 24-6040